

季節の花だより

● 潮風に吹かれて揺れる薄桃色の花 ハマヒルガオ・ハマナス

いずれも海浜植物の代表的な花で5月中旬から6月にかけてが見頃。ハマヒルガオは大山町・下木料海岸の群落をはじめ弓ヶ浜半島に至る各所で見られ、砂浜に涼を誘う淡いピンクの花畑が出現します。その名の通り日中に咲いて日没にしばむ、どこはかとなさに惹かれます。少し濃いめのピンク色の花を咲かせるハマナスは、大山町下市川河口の右岸転石の中に自生しています。氷河時代に寒冷地より南下して根付き、ここがその自生南限地。植物生態学上、地史学上も極めて貴重なもので、国の天然記念物として指定されています。



● 初夏の彩り 花苧蒲と紫陽花

しっとりとした初夏の彩りで日本情緒を醸し出す花苧蒲。日本情緒と言えば、いずれ劣らぬ美しい女性たちを指して「いずれがアヤメ、カキツバタ」という表現がありますが、これに花苧蒲が加わったらもう、どれがどれやら……。見分け方は花卉の元の模様の違いで、花苧蒲が黄色の目型模様、アヤメが網目模様、杜若(カキツバタ)が白の目型模様だとか。花苧蒲の見どころと言えば、山陰で最大級と言われる大神山神社。面積約2千平方mの庭に50種5万株が植えられており、6月上旬ともなると次から次へと苧蒲の花が咲き始めます。スイレンも同時に見頃を迎え、また境内の千五百本もの紫陽花は花苧蒲に少し遅れて咲き始め、これらの花々の共演が見事です。

- 大神山神社苧蒲園(米子市尾高)
- 開園時間/9:00~18:00
- 観察料/300円(15名以上で団体割引あり)

季節の味だより

● もちもちとした食感がたまらない! 日本海の味覚「あご」

「あご」とはトビウオのこと。田圃に早苗が青みを増す頃から、家庭の食卓には「あごの刺し身」と「あごの子の煮付け」が並び始めます。対馬海流に乗って成長しながら日本海を北上し、5月~8月に産卵のため海岸の岸近くまで寄ってきたものを、すくい網や定置網、流し網などで捕らえます。

近海で水揚げされるので実に新鮮で、美味しいうえに安い!都会地のファンもけっこういるらしく、その独特の「もちもち」とした食感を求めて当地を訪れる食通たちも多いとか。「あご」のすり身100%使って作る「あごちくわ」もまた山陰ならではの。香ばしい香り、しゃきとした歯ごたえ、素朴な味わいが親しまれています。



● 山陰に暮らしていればこそ! 豪快に「マグロ三昧」

例年6月下旬から7月にかけて、境港では「クロマグロ」が揚がります。多いときは100キロ程のものが千本近くも。トロはもちろん旨いですが、お手頃価格の赤身の美味しさもなかなかのもの。切り身をたっぷり乗せた「マグロ丼」、ステーキ、それにカルパッチョ、忘れちゃならない「カマ」もイケてます。もちろん冷凍なんかではありません。今年も大漁を期待し、境港の魚の直売所あたりでブロックを買い求め、マグロ三昧と参りましょう。

とっとり花回廊 TEL.0859-48-3030 5~6月のイベント情報



ムーンライトフラワーガーデン 6月よりスタート

いよいよ6月から、土・日・祝日を中心にスタート!月明かりをイメージした柔らかな照明が、園内の木々や花の色を美しく引き立たせ、幻想的な世界に誘います。使用している照明の数は約14,000個。陰影が際立った昼間とはまったく違う雰囲気。その静寂の中に身を置くと、きっと心の底から癒されるはずです。

- 入園料/大人 700円 小中学生 350円
- 開催時間/6月~9月/日没後~午後9時(最終入園午後8時) ※開催日はイベントカレンダー(5p)をご参照下さい。
- 12月/日没後~午後8時30分(最終入園午後8時)

5月開催のイベント

- 絶滅危惧種展 ● 米子バラ会展示 ● ガーデニングコンテストin花回廊 ● バラ園でワインパーティー ● 講演と体験「ハーブを知ろう」(ハーブティー試飲) ● バラをライトアップ(ムーンライトフラワーガーデン)

6月開催のイベント

- 日本の15種の原種ゆり展示 ● ゆりウオーク ● ゆりクイズラリー ● 初夏の山野草展

★5月 ばらまつり

5月20日(土)~6月9日(金)

ヨーロッパンガーデンにある2ヶ所のバラ園に咲き誇る、約140品種、500株のバラの色と香りをお楽しみ下さい。その他園内では、ミントやタイムなどのハーブも可憐な花を咲かせます。



★6月 ゆりまつり

6月10日(土)~7月9日(日)

とっとり花回廊は、いつ訪れてもゆりの花に会える日本でも数少ない施設ですが、特にこの季節にはササユリ、アジアティック、オーレリアンをはじめ、屋外花壇で80種類、約8万5千球のゆりが順次咲いていきます。北館ササユリ群落奥に新設された「原種ゆりゾーン」に、ゆりのルーツを探るのも楽しいはずですよ。

展覧会 Pick up!

■ 植田正治と「小さい伝記」展

4月22日(土)~7月9日(日) 植田正治写真美術館



・1982年 ©Shoji Ueda Office

シリーズ「小さい伝記」は、雑誌「カメラ毎日」に1974年から1985年の12年間にわたって13回発表されました。掲載の各回が断章のように少しずつ違うテーマを持つ作品群は、入手したばかりのハッセルブラッドのカメラで撮影しています。正方形の画面の中には山陰の風景や人びとが、そして子どもたちが真正面からとらえられ、植田のやさしさとユーモアがあふれています。

- 開館時間/9:00~17:00(最終入館は16:30)
- 一般800円 高・大学500円 小・中学300円
- お問い合わせ/TEL.0859-39-8000

初期から近作まで、スケッチや原画など150点日本初公開

■ ミッフィー展 -50 years with miffy-

5月26日(金)~7月10日(月)

鳥根県立美術館(観覧料など詳細は7p参照)

ミッフィー(うさこちゃん)が絵本の中に生まれてからちょうど50年。世界各地で開催される記念事業の中核として、数多くの貴重な原画やスケッチなどが日本初公開される、かつてないスケールの展覧会です。1955年にはじめてミッフィーが登場して以来の



Illustration Dick Bruna © copyright Meris bv.2004 www.miffy.com

主な絵本の原画、スケッチ、印刷原稿など150点を超す作品を展示。またオランダ人の作者ディック・ブルーナさんのスタジオも再現され、オリジナル映像も交えて、シンプルな色と形が生み出される過程が明らかに。その他多彩な展示で、心安らくミッフィーの世界がきっと堪能できるはずですよ。

■ パリで描いた夢と祈りの絵画 足羽俊夫 渡仏45年の歩み

6月3日(土)~7月9日(日)

日南町美術館



悲しみの王

日南町出身でパリ在住の画家、足羽俊夫の渡仏45周年の作家活動を、初公開作品や未公開のスケッチブック、アトリエの風景写真や使用している画材道具を展示して紹介。志も高く初めてフランスへ渡航したときのパスポートなど展示され、興味深い。

- 開館時間/8:30~17:00(最終入館は16:30)
- 一般200円 高校生100円 中学生以下は無料

米子市美術館特別展

■ 「藤城清治 光と影の世界展」開催!

7月15日(土)~8月27日(日) 米子市美術館

影絵作家の第一人者、藤城清治自らが展示構成した本格的な展覧会。鳥取県の神話をテーマにした作品をはじめ、戦後間もない初期のモノクロ作品から最新作まで、大作を中心に約100点を選びめぐり、半世紀以上に及び影絵創作の軌跡を振り返ります。

- 開館時間10:00~18:00
- 一般=1,100(800)円、高校・大学生=600(500)円、小・中学生=400(300)円

※()内は前売り、15名以上の団体、70歳以上の方、障がいのある方(介護者1名含む)の料金。